

山形県ルーラルイノベーションセミナー

YAMAGATA Rural Innovation Seminar

令和6年1月11日（木） 文翔館 議場ホール

プログラム

- 13:00 開場、受付開始
- 14:00 開会
主催者挨拶
山形県知事 吉村 美栄子
- 14:05 基調講演
OECDの取組み：地域政策、農村政策の視点から
OECD CFE ドロテ・アラン・デュプレ 課長
- 14:25 山形県の取組み紹介
山形県の農山漁村地域づくりプランナーの取組
山形県農林水産部農村計画課 草 大輔
- 14:35 有識者の視点（※録画映像）
農村プロデューサーとルーラルイノベーション（地域づくり）
明治大学 小田切 徳美 教授
- 14:55 Japan Studyの中間報告
内発的イノベーションに必要な農村プロデューサーの役割
OECD CFE 野々村 圭造 政策分析官
- 15:25 パネルディスカッション
農村の未来を持続可能とするルーラルイノベーションとは
パネラー：OECD CFE ドロテ・アラン・デュプレ 課長
野々村 圭造 政策分析官
農林水産省 長田 恵理子 農村政策推進室長
山形県 高橋 信博 氏、末永 玲於 氏
進行：山形県農村計画課 草 大輔
- 16:00 閉会

メモ欄

【注意事項】

- ・会場内は飲食禁止です。
- ・セミナー中の休憩時間は設けておりません。
- ・会場内にはトイレはございません。会場を出て左手にある文翔館のトイレをご利用ください。

■ ドロテ・アラン・デュプレ

OECD CFE 地域開発・マルチレベルガバナンス課長

OECD/CFE (起業・中小企業・地域・都市局) の地域開発およびマルチレベルガバナンス部門の責任者であり、OECDの地域開発政策委員会の取組を推進。地域パフォーマンス、地域格差の緩和、農村開発、地域の魅力、地方分権化、公共投資、地域・地方財政などの分野における地域開発政策と多層ガバナンスを推進する取り組みに関して、OECD加盟国およびパートナー政府への支援の提供を行っている。



■ 小田切 徳美 (おだぎり とくみ)

明治大学農学部 教授

神奈川県生まれ。専門は農政学・農村政策論、地域ガバナンス論。東京大学助教授等を経て、2006年より現職。国内外の農村を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。農村プロデューサー養成講座講師。地域づくり等に係る調査で何度も来県している。



■ 野々村 圭造 (ののむら けいぞう)

OECD (経済協力開発機構) CFE 地域開発・マルチレベルガバナンス課政策分析官

OECD/CFE (起業・中小企業・地域・都市局)政策アナリストとして、農村イノベーションおよび第一次産業関連のプロジェクトに従事。

2021年9月より農林水産省からOECDへ出向中。農林水産省では土地改良を中心に農業政策や農村政策も幅広く担当。2021年の農村プロデューサー養成講座開始時の担当。



■ 高橋 信博 (たかはし のぶひろ)

山形県農村づくりプロデューサー

山形県白鷹町生まれ。農業土木の技術者として、県内の農業農村の振興及び基盤整備の推進に携わり、地域づくりの普及と実践活動を支援してきた。県内 外1,000か所以上の地域に関わり、ワークショップ形式を用いた集落の話し合いのノウハウを有する。



■ 末永 玲於 (すえなが れお)

株式会社ローカルインキュベート 代表取締役

富山県生まれ。2019年より山形県村山市を中心に「関係人口創出」事業に携わり、その縁がきっかけで村山市に移住。慶應義塾大学経済学部在学中に起業。



« OECD (経済協力開発機構) とは »

OECDは、パリに本部を置く国際機関で、現在欧州諸国、米国、日本など38か国が加盟 (日本は1964年に加盟)。「世界最大のシンクタンク」とも呼ばれ、経済・社会の様々な問題について調査・分析し、各国に政策提言。同時に世界のルール形成の場として、先進的課題についてスタンダードやルールを形成している。(外務省HPより引用)

« OECDによるルーラルイノベーションに関する調査の趣旨 »

ルーラルイノベーションの取組みは、都市部で先行しているイノベーションを農村部でも起こすことで農村地域の持続的発展を目指すもので、OECDでは加盟国中の5か国 (カナダ、日本、スイス、スコットランド、アメリカ) により、2019年から調査を実施。

日本の調査では地域資源を活かした地域の取組や事業継続で重要な人材育成に注目。特に地域づくりの取組みや人材育成で全国的に実績のある高橋信博氏の取組に焦点を当てたことから、山形県が調査対象地として選定された。